

質問日	令和2年9月28日(月)		質問方式	分割方式			
質問順位	4	会派名	市民クラブ	議席番号	23	氏名	鈴木 真人
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 新型コロナウイルス感染症への対策・対応について	<p>世界中で新型コロナウイルス(COVID-19)への感染が続いている中、本市においては予備費等を活用し、様々な緊急対策を迅速に実施してきている状況にある。しかしながら、産業・経済への甚大な影響もあり、ウィズコロナ社会では、感染対策と経済回復をバランスよく両立させていくことが求められている。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 大きな影響を受けている飲食業を中心に感染対策と経済回復をバランスよく両立させていく具体的な取組について伺う。</p> <p>(2) 新型コロナウイルスに関する医療体制及び検査体制について、現在までの総括とインフルエンザ流行に備えた体制強化について伺う。</p> <p>(3) 有効な治療薬やワクチンが存在していない現時点においては、人が持つ免疫力がウイルスに対する重要な役割を担っている。ウイルスに対する免疫の仕組みを知ることが、感染予防の方法を知ることとともに大切である。そこで、免疫の働き、免疫力を高めるための知見を市民に伝えるために各種セミナー・出前講座をはじめ、広報はままつやLINE公式アカウントなどを活用した情報発信の取組について伺う。</p> <p>(4) 感染者やその関係者に対してインターネット上などの誹謗中傷があったことから、本市では「すべての人に思いやりとやさしい心を」というメッセージで啓発活動を行っている。本市のさらに強い姿勢を示すため、新型コロナウイルス感染症に関わる誹謗中傷、風評被害を予防するための条例の制定について考えを伺う。</p> <p>(5) 国の緊急事態宣言を受けたステイホーム、学校の臨時休業、企業における在宅テレワークの促進といった市民生活が劇的に変化した環境下において、男性の家事・育児参加が進まず、女性の負担はより大きくなっているということが報じられている。「家事・育児は女性が行うもの」といった固定的性別役割分担意識に関する課題が、新型コロナウイルスの感染拡大を機に顕在化・表面化したものとする。そこで市の施策、事業において、この課題を提起し、男女共同参画を新たな視点から考える機会の提供に対する考えを伺う。</p> <p>(6) 小・中学校では、感染症予防のために、消毒や感染症予防の指導などで教員が多くの時間を費やしている状況にある。本市では、緊急スクール・サポーター等を活用して教員の負担軽減を進めているが、全小・中学校には導入していない状況にある。教育の質を高めるために</p>						鈴木市長
							鈴木医療担当部長
							〃
							山下健康福祉部長
							奥家市民部長
							伊熊学校教育部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>教員が本来の業務に集中できる環境整備をさらに進める必要があると考える。そこで、そのための具体的な取組を伺う。</p> <p>(7) 台風10号に備えた避難において3密対策で収容人数の減った緊急避難場所が定員に達して入場が制限され、ほかに行かざるを得なかったとの報道があった。そこで、本市における緊急避難場所の混雑状況の情報提供・配信の取組について伺う。</p>	小松危機管理監
2 デジタル・スマートシティ推進事業について	<p>昨年10月にデジタルファースト宣言を行い、本年4月からデジタル・スマートシティ推進事業本部を立ち上げて、9分野でその推進が図られている。一方で、コロナ禍においてデジタル化を推進したことにより新しい生活様式にいち早く対応できたと評価できる。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 現時点における総括と今後の取組姿勢について伺う。</p> <p>(2) 行政におけるデジタル活用は、市民サービスの向上と業務効率の向上を両輪として進めるべきと考えるが、現状と今後の方向性について伺う。</p> <p>(3) 庁内におけるデジタル人材の育成の状況とその成果、並びに今後の計画について伺う。</p> <p>(4) デジタル活用の課題解決にはシビックテックと言われるデジタル技術を持つ市民の力が欠かせない。東京都から始まり全国に広がった新型コロナウイルス感染対策サイトのように、シビックテックによるオープンソース、オープンデータを活用した課題解決の推進が重要になる中、本市の取組について伺う。</p> <p>(5) デジタル活用の課題解決には情報活用能力を持った人材の育成が重要となる。そのため、小学校で始まったプログラミング教育だけではなく、小中高生に学校とは別に子供の頃からオープンデータに触れる機会をつくる必要があると考える。そこで、現状と今後の取組について伺う。</p> <p>(6) スマートフォンを持たないなど、デジタル化の恩恵を受け難い方々への対応について伺う。</p>	<p>鈴木市長 朝月デジタル・スマートシティ推進事業本部長 ” 内藤企画調整部長 ” 朝月デジタル・スマートシティ推進事業本部長</p>
3 浜松ウエルネスプロジェクトについて	<p>本年4月からスタートした「予防・健幸都市」の実現を目指した新たな官民連携プロジェクトでは、2つの官民連携プラットフォーム（浜松ウエルネス推進協議会と浜松ウエルネス・ラボ）を立ち上げ、健康づくりを推進する企業を募り、健康づくりに寄与する“浜松発”の様々な官民連携社会実証事業等を展開している。そこで、以下伺う。</p>	鈴木医療担当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(1) 現時点での参加企業の状況、今後さらに参加企業を拡大していくための取組について伺う。</p> <p>(2) 予防・健幸都市を目指すためには、市民団体にもウェルネスプロジェクトを広めていくべきと考える。本市内の健康づくり団体に加え、様々な団体にも登録を促し、プッシュ型の情報発信をしてはと考えるがどうか伺う。</p> <p>(3) 次期のはままつ友愛の高齢者プランに組み込むなど多くの市民に本プロジェクトを知ってもらい、ウェルネスの活動を実践してもらおう取組について伺う。</p>	
<p>4 学校における働き方改革について</p>	<p>国は昨年度に公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法（給特法）を改正し、本市も3月に関連する条例改正を行い、教員の時間外労働について年間360時間、月45時間とする上限ガイドラインを設定した。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大を受けた本年4、5月の学校臨時休業、その後の授業日程の変更などにより、教員は日々の働き方に大きな影響を受けている。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症という環境変化があったとしても働き方改革は推進すべき課題である。4月から7月までの80時間を超える時間外勤務時間の昨年度との比較及び時間外勤務時間の突出者の状況について伺う。</p> <p>(2) 学校内の仕事の進め方として、特定の人に業務が集中することは、何かあった場合のリスクにもなりかねない。その対策や今後の具体的な取組を伺う。</p> <p>(3) ミライムで集計された勤務時間データの分析やその活用方法について伺う。</p>	<p>花井教育長</p>
<p>5 小・中学校の特別教室の空調設備の整備について</p>	<p>気温日本一となった本市は、暑さのリスクがさらに高まったとも言える。暑さへの対策として、昨年度からの2か年計画で全ての小・中学校の普通教室に空調設備が設置される予定である。しかしながら、空調設備が未整備の特別教室を使用する授業があり、暑さに対するリスクは依然として存在している。</p> <p>普通教室に引き続いて特別教室への空調設備の設置を実施する場合の総事業費と具体的スケジュールについて伺う。</p>	<p>伊熊学校教育部長</p>
<p>6 天竜区の教職員住宅の環境改善について</p>	<p>天竜区にある10か所の教職員住宅には現在37名が居住している。しかしながら、住宅の老朽化や害虫被害とともに、プライバシーが制限されている住宅があるなど住環境の迅速な改善が必要な状況にある。</p> <p>そこで、住環境を早急に改善するための今後の具体的な取組について伺う。</p>	<p>伊熊学校教育部長</p>